

フィリピン医療支援チームの活動状況 (その 3:7月9日(土曜日)～11日(月曜日))

フィリピン医療支援チームは、7月9日(土曜日)は、宮城県仙台市と同南三陸町をそれぞれ訪問し、被災された在日フィリピン人及びその御家族 24 名との面談を行いました。また、7月10日(日曜日)は、チームを二手に分け、第1チームは岩手県釜石市と大槌町、第2チームは宮城県伊具郡丸森町を訪れ、それぞれ在日フィリピン人及びその御家族 9 名及び 14 名の合計 23 名との面談を行いました。面談は、今回の震災に際しての心のケアのみならず、日本で生活するにあたっての様々な問題や不安に関する相談、自ら地域に溶け込むための日本語習得等の機会をもっと得たいという相談、パスポートの更新等の領事的相談など多岐にわたりました。医療支援チームは、一人一人と30～40分にわたって話を聞き、1か所の滞在が4時間を超えるところもありました。面談者からは、母国語で思いの丈を存分に話すことができ、気持ちが高まりました、思い出すと悲しいことも多いが、専門の先生方と話ができ、アドバイスを受けたことは有難かった等の声が聞かれました。



面談するフィリピン医療支援チーム



面談するトリユンフォ医師



在日フィリピン人の子供たちとは遊びを通じて
インタビューを実施

7月11日(月曜日)は、今回の医療支援チームの派遣に当たり、巡回先との調整などで協力してもらった在盛岡フィリピン名誉領事館(6月30日を以て閉館)関係者へのお礼の挨拶を行うとともに、活動地域の基幹病院である岩手県立大船渡病院を訪れ、院長及び副院長に対し、10日間の活動を通じて延べ192人(在日フィリピン人133名、その子や家族59名)の面談を行った旨の活動報告を行いました。また、その後、同病院にて、面談者の状況についての報告を行い、治療が必要な方々の紹介・引き継ぎを行いました。これら活動報告に当たっては、コラレス医師(団長)からは、今回の支援活動を行う機会を与えてもらったことに感謝する旨、また、支援活動に参加することができ光栄に思うとの発言がありました。

なお、医療支援チームは、車2台を使って11日間の巡回を行ったところ、その2台の走行距離は約9,000kmにも及びました。



巡回カウンセリングが終わるとチーム内での情報共有と翌日の対応について打ち合わせを実施



フィリピン医療支援チームが岩手県立大船渡病院を訪問し、活動報告。院長、副院長と記念写真。